

手話言語学を世界へつなぐ

メディア発信とe-learning開発に向けて

研究代表者 菊澤律子 総合研究大学院大学文化科学研究科比較文化学専攻 / (基盤研究機関) 国立民族学博物館先端人類科学研究部

手話言語学＝手話を対象とした言語学的研究

音韻論 / 形態論 / 統語論 / 語用論 / 言語類型論
歴史言語学 / 社会言語学 / 認知言語学 / 他

問題

新しい研究分野であり、研究者数や成果が限られている。
若手研究者が興味を持って専攻できる場がない。ろう者（話者）が内容を知ることのできる場がほとんどない。

本プロジェクトの目的

手話言語学の研究成果をインターネットで配信
ろう者への情報保障
配信のための基盤の整備と共有化

具体的には…

- ◎ウェブサイトの構築（基盤の整備）
- ◎映像資料の作成（ルーティン化に向けて）
- ◎将来に向けての方向性の整理

関連諸分野の
研究者の
協力により

平成24年度～

インターネット配信・ウェブサイトの構築
映像資料たたき台制作

Facebookページ



映像配信用ウェブサイト



講演をインターネットにて映像配信



WEB掲載用映像資料のたたき台制作と評価

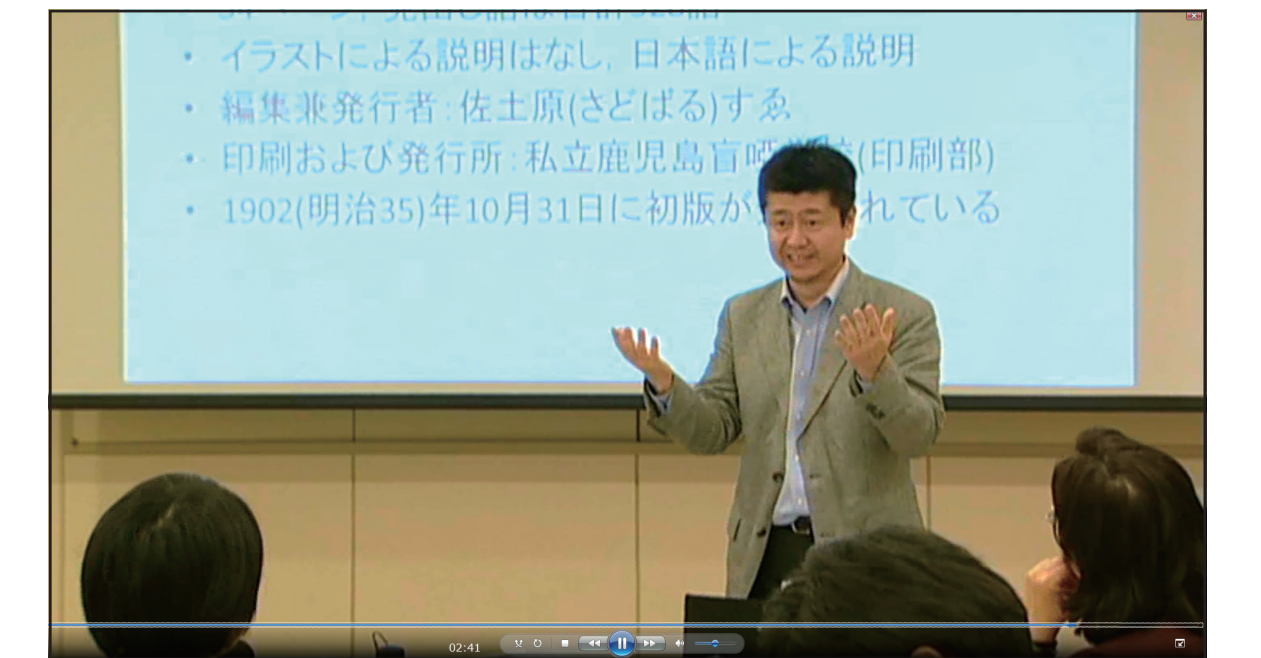


平成25年度～

映像資料の作成

- 講演状況 異なる講演言語、異なる通訳設定パターン
- 情報保障 4言語（日本語、日本手話、英語、アメリカ手話）
- 収録内容 講演者、講演資料、手話もしくは読取通訳、同時筆記サービス
- 事後処理 書き起こし、翻訳、通訳撮り、ナレーション入れ、映像の編集
- 倫理面対応 肖像権、話者の承諾、通訳の二次利用等

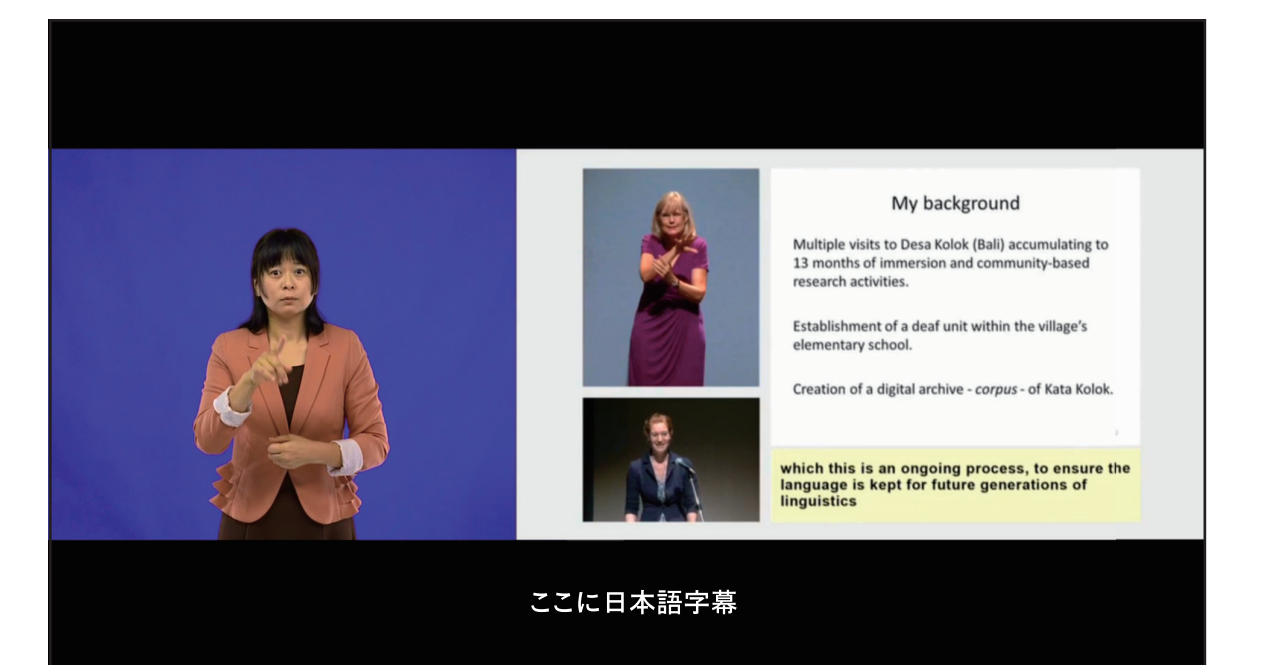
日本手話による講演



同時筆記サービスによる字幕付けの試み



日本手話通訳の後日収録

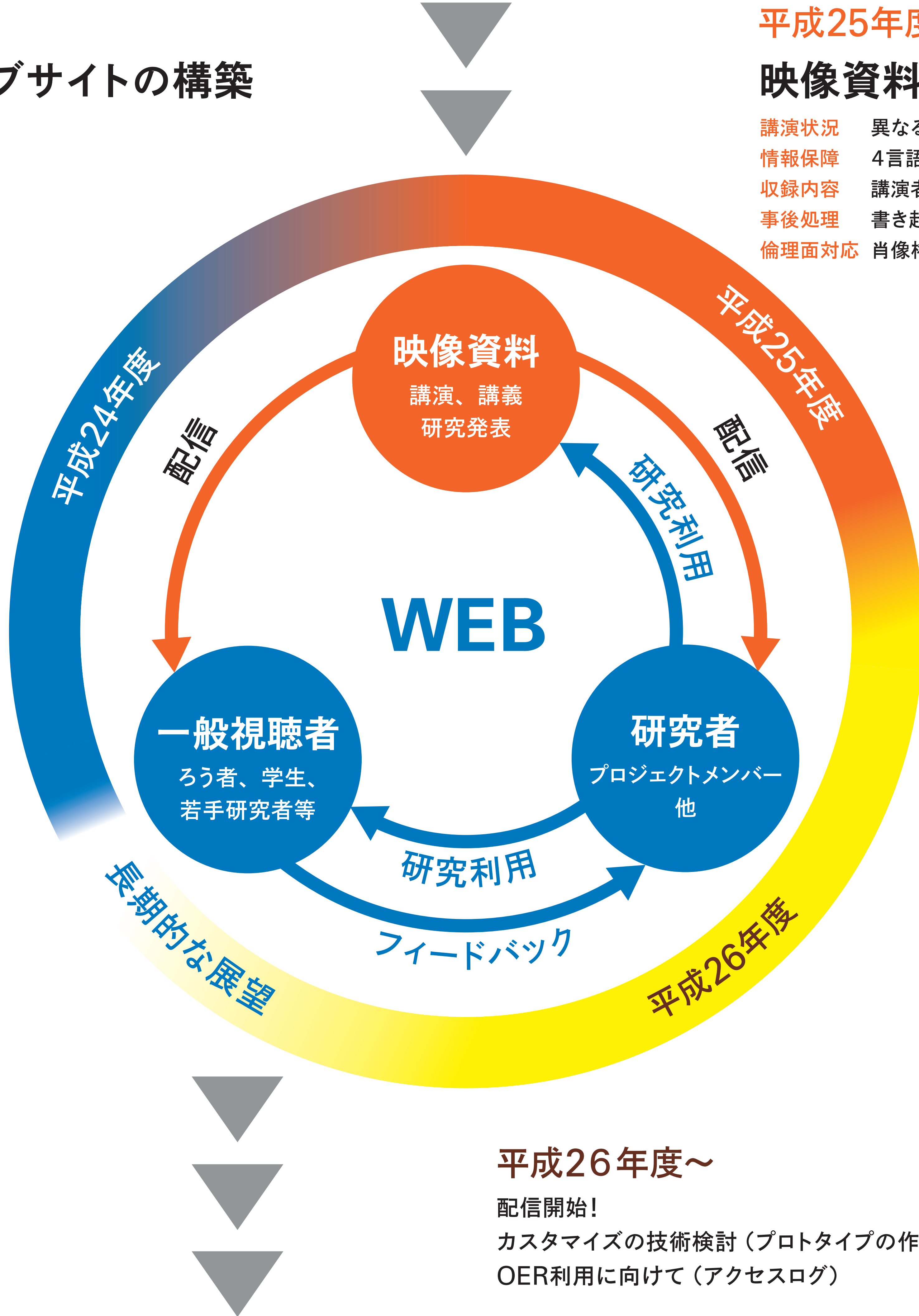


平成26年度～

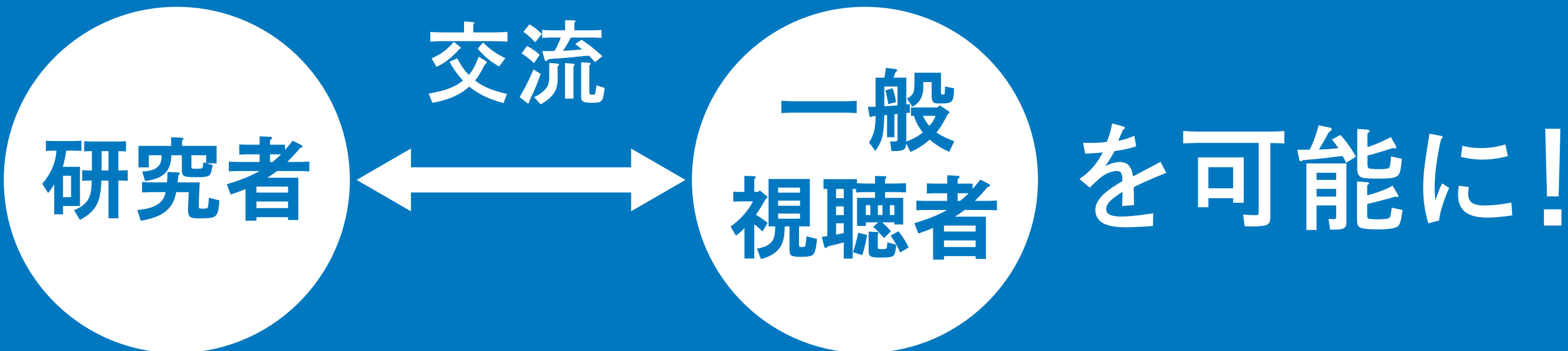
配信開始！
カスタマイズの技術検討（プロトタイプの実用化）
OER利用に向けて（アクセスログ）

カスタマイズに関する 技術検討開始

見たい言語や字幕を選んで画面構成を
カスタマイズ可能に。



長期的な展望



★誰にとっても見やすいデータの提供

カスタマイズ版の実用化

★フィードバックを得る仕組み

e-learning / OER 利用

★資料やサイトの研究利用

言語学、通訳学、情報学、教育学、情報工学、教育工学、他

研究チーム ★ろう者 ★聴者

市田泰弘 (手話言語学、手話通訳法)★

大杉 豊 (手話言語学、コーパス研究)★

奥本素子 (学融合推進センター / 教育工学、サイエンスコミュニケーション)★

菊澤律子 (比較文化学専攻 / 言語学、言語展示学)★

木村晴美 (手話言語学、手話通訳法)★

相良啓子 (手話言語学、手話言語類型論)★

庄司博史 (地域文化学専攻 / 社会言語学)★

富田 望 (手話言語学)★

廣瀬洋子 (メディア社会文化専攻 / 教育工学、高等教育における障がい者の学習支援)★

坊農真弓 (情報学専攻 / 会話情報学、言語学)★

ジェニファー・マグワイア (ろう教育学)★

丸川雄三 (連想情報学)★

森 壮也 (手話言語類型論)★

柳沼良知 (情報工学、マルチメディア情報処理)★

八杉佳穂 (比較文化学専攻 / 言語人類学)★